



今週のポイント

いちよしアセットマネジメント

1月の国内株式市場は不確実性が拡大する中でも衆議院解散報道等を背景に堅調な推移となった

1月の国内株式市場は米トランプ大統領発の不確実性拡大をもろともせず、堅調な展開となりました(TOPIX、日経平均株価の月間騰落率はそれぞれ+4.6%、+5.9%)。1月前半における株高の要因の一つは、衆議院解散を巡る報道です。高い内閣支持率を背景に選挙で与党が勝利すれば、高市首相が掲げる成長戦略が加速するとの期待から、日本株は上昇しました。また、米半導体株高を受けて日本市場でも半導体関連株を中心に買いが入り、日経平均の上昇に繋がりました。

月後半には、トランプ大統領がグリーンランド領有を巡り欧州8カ国へ追加関税を課す方針を示したことで、米欧の貿易摩擦への懸念から欧州株が下落し、日本株にも悪影響を与えました(その後撤回)。中国政府による日本へのレアアース輸出規制強化の見方から、一時株価が急落する場面もありました。また、国内長期金利も上昇し株式市場全体にとっては重しとなった一方、金利上昇期待は銀行業などの金融株にとっては株価の押し上げ要因となりました。23日には、米ニューヨーク連銀がレートチェック※1を実施したとの報道がなされ、為替市場において円高ドル安が進行しました。これが輸出株の重石となり、月末にかけての上値を抑える要因となりました。

新FRB(米連邦準備制度理事会)議長発表や米AI(人工知能)開発企業の台頭等、不確実性の拡大は続く

2月に入っても不確実性の拡大はとどまるところを知りません。1月30日、ウォーシュ元FRB理事が次期FRB議長に指名されましたが、マーケットの初期反応はリスクオフです。同氏がFRBのバランスシート拡大に従来から否定的であり、その連想(QT※2の可能性)から、短期的に過剰な資金流入があったリスク資産が急落しました。その典型が金、銀です。

金価格の国際指標の一つであるロンドン現物価格は1月29日に1トロイオンス(約31.1グラム)あたり5,594.82ドルの最高値を付けましたが、30日には急落し前日比530ドル(9.8%)安い4,864.35ドルで取引を終えました。1日の下げ幅としては過去最大で、下落率も1980年以来の大きさです。2月2日のアジア時間の取引でも続落し、4,400ドル近辺まで下げて1カ月ぶりの安値となりました。銀現物価格(米国市場)も1月29日の高値121.65ドル(1トロイオンス)から、2月6日の安値64.09ドルまで47%以上の下落となりました。

そして、3日にはアンソロピックショックの襲来です。対話型AIの「Claude」を開発する米アンソロピックが、営業、法務、データ分析などの実務を自動化する新しいAIツールを発表しました。この報道を受け、マーケットでは「これまで専用ソフトウェアが必要だった業務がAIによって簡単に置き換えられてしまうのではないか」との懸念が広がり、米国の「SaaS※3」企業を中心に株価が急落する事態となりました。MSCI World Software/Service指数は2日の690.411ポイントから、5日には627.705ポイントまで約9%の下落となりました。金・銀の崩落も、SaaSの下落も過度に資金が集中していたために、もっともらしい「きっかけ」でモメンタム(相場の勢い)のアンワインド(巻き戻し)が発生したに過ぎません。全体相場への影響は一時的で、特にSaaS企業全般の下落は選別投資の好機と言えます。

衆議院選挙では自民党が圧勝。政権基盤の安定を背景に高市政権の政策推進力が増すものと思われる

8日投開票の衆議院選挙では、自民党が316議席を確保し圧勝しました。衆議院で3分の2以上の議席を得たことで、参議院で否決された法案を再可決して成立させることが出来ます。高市政権の政治基盤が盤石となったことで、消費税減税が無くなり、高圧経済政策の推進力が増し海外投資家の日本株シフトが加速するものと思われます。過去の経験値では、自民党が大勝した場合、投開票日から50営業日後までにTOPIXは約20%上昇しています。今回は既にフライングで上昇していることから、選挙後の高値の用途はTOPIXで4,000ポイント、日経平均株価で58,000円を想定しています。

～ワンポイント用語集～

※1 レートチェック…日銀など中央銀行が銀行等の市場参加者に為替相場の水準を照会すること。為替介入の準備段階で行われることが多く、政府が懸念を表明する口先介入よりも市場へのけん制効果が高いとされる。

※2 QT…「Quantitative Tightening(量的引き締め)」の略称。中央銀行の金融政策において、中央銀行が市場から買い入れた金融資産(主に国債)のうち満期が到来した分につき、再投資せず償還させることでバランスシートの縮小を図ること。

※3 SaaS…「Software as a Service」の略で、読み方は「ソース」もしくは「サーズ」。インターネット経由で業務用ソフトウェアを提供する。従来のインストール型ソフトウェアとは異なり、サービス提供事業者のサーバー上で動作し、ユーザーはインターネットを通じてアクセスするだけで、ソフトウェアを利用出来る。